

例会報告：2013年7月2日（晴れ）第1804回 年初例会

会場：報徳会館
時間：15:00～20:00

❖ 会長挨拶

露木 清勝 会長



2013'-2014 年度小田原城北ロータリークラブ年初例会にあたり、ロータリークラブの基本理念『職業奉仕』について、皆様方にお話ををしたいと思っております。

先週末、一向に進まない東日本大震災の復興を2年3ヶ月、800日及びドキュメンタリーとして放映されたテレビ番組を観ました。皆様の中にもご覧になられた方はおられるとおもいます。場所は、宮城県名取市関上地区の問題でした。この番組では震災直後から、3人の人物に焦点をあて取材をして、番組が構成されていました。一人は市長、また一人は水産加工業を営み地元関上港の朝市を運営する人物、そしてもう一人は、家族4人を津波で亡くされた方です。

市長は、震災直後から復興のトップランナーとして復興計画を作り上げました。この計画は、現地再建計画で土地を数メートルかさ上げし、もちろん高い堤防もつくり上げ、そこに5000人規模のまちをつくり上げる計画です。

しかし、この案は、家族4人を津波で亡くされた方に、多くの被災者から性急過ぎると合意を得られず、規模は、3000人そして1500人と縮小されていきます。市長からはこれ以上縮小されては、税金を使って復興する意味が無いとの話が出され、行政の行き詰まり、限界が露呈します。

一方、朝市の運営者は意見の分かれる様々な団体を、話し合いのテーブルに着かせようと努力する一方、この春には、関上港での朝市再開に踏み切ります。出店する業者からは、まだ時期が早いのでは?との話も出ていました。いざ再開してみると、多くのお客がつかめかけ出店者を始め多くの笑顔で包まれる朝市の再開となりました。

このことは、ゼロからのまちづくりの場合、行政が行うインフラ整備だけでは、まちは出来ないということではないでしょうか?朝市を運営する水産加工業の方のように、自分の職業を通じて多くの市民の『笑顔』を作る。まさに我々様々な職業を持つ団体、ロータリークラブの目指す『職業奉仕』がまちをつくり上げるということなのではないでしょうか?皆様はどのようにお考えになりますか?

❖ 幹事報告

金山 慶昭 幹事



- 1)本日の理事会で新会員の推薦があり承認されましたので今週末までに皆様にプロフィールが届きますので宜しくお願いします。
- 2)今月のロータリーレートは99円です。
- 3)活動計画書が出来ましたが、見落としがあり委員会構成表の石橋徹が石崎徹になってましたので訂正して下さい。ページ後半の資料に今年度はローターアクトの資料と交換留学生のページを設けました。

❖ 出席報告

一寸木 信雄 委員長

出席報告	会員数	出席	M.U	出席率
7月2日	50(49)	47	0	91.49%
6月25日	49(47)	35	3	80.85%
6月18日	49(45)	32	2	82.22%

【欠席者】 4名

菊地 義雄、高橋 哲也、鈴木 進、石橋 徹

【今回MU】 0名

【前回MU】 増加なし

【前々回MU】 増加なし

❖ クラブ協議会



❖ 懇親会

